

宿泊客に商店利用券

券「地盛券」を発行するサービスを始めた。世間に自粛ムードが広がるなか、観光客の呼び込みを図ることで地域経済の破綻を防ぐことが狙いだ。【遠藤大志】

新型コロナウイルスの感染拡大により県内を訪れる観光客が減少するなか、南三陸町の「南三陸ホテル観洋」は13日から、宿泊客を対象に地元商店で使える500円分の利用

自粛ムード対策

南三陸のホテル 数千枚発行

券を利用できるのは東日本大震災後に同ホテルが作製した観光マップ「南三陸てん店まっぶ」に掲載された町内の商店70店舗のうち、サービスに同意した店。13日現在で飲食店など約60店舗が企画への参加を表明している。同ホテルに宿泊すれば、大人1人1泊につき1枚が発行され、チェックアウト時まで使用できる。経費はホテル側が負担する。企画したのは同ホテルのおかみ、阿部憲子さん(57)。券の名称には「地元を盛り上げよう」との思いを込めた。震災後、記憶の風化を

1泊で500円分 来月5日まで

防ぐ「語り部バス」の運行など独自の事業を手がけてきた阿部さん。苦しいときこそ、みんなで前向きに力を合わせる事が何より大切」と狙いを語る。交流人口が震災前の水準まで回復していない沿岸被災地にとって、新型コロナウイルスによる自粛ムードの広がりはまさに「二重苦」だ。県ホテル旅館生活衛生同業組合のまとめによると、県内のホテルや旅館116施設で2月中にあった宿泊キャンセル人数は約9万3000人。同組合の佐藤勲三郎理事長(「ホテル佐勘」社長)は「沿岸地域では新型コロナウイルスの影響で閉業せざるをえな

い事業者も出ている」と明かす。

南三陸ホテル観洋では、3月12日までに約1万4000人分のキャンセルがあったという。阿部さんは「ホテルだけでなく、地元商店にとっても観光客の減少は大きな打撃だ。

震災による二重ローンを抱えている事業者もおり、ただ状況を静観しているだけではない」と訴える。券は数千枚発行する予定。「国の要請による自粛ムードはやむを得ないが、民間は民間で自分たちの身を守ら

なければならぬ。地元経済が少しでも盛り上がり、(経費の負担は)憂慮するような金額ではありません」と力を込めた。利用券の配布は4月5日まで。問い合わせは同ホテル(0226・46・2442)へ。



「地盛券」を掲げる南三陸ホテル観洋のスタッフたち一同ホテル提供

2020年3月14日(土)

毎日新聞